

学制頒布百年を記念して

足利市教育委員会委員長 福田 英二

本年は、明治5年「学制」発布によりわが国の近代学校制度が創設されてから百年の歴史を画す記念すべき年である。本市の教育も各学校の諸先生や地域のみなさんの熱意と努力によって、年を重ねるごとに充実の一途をたどりつつあることは、まことにうれしい限りでありご同慶のいたりである。わたくしは、この記念すべき年を迎えて、教育に対する思いを新たに、学制発布以来のわが国の教育のあゆみをふりかえるとともに、現代における教育の問題点や今後への期待を申し述べたいと思う。

明治政府は、学制発布以来、教育に対しては非常に大きな力を入れ、国民もまたこれに惜しみない協力を続けてきたのである。その結果、明治末期には義務教育の就学率は98%という世界有数の教育普及国となったのである。大正時代に入ると、教育制度や教育施設をいっそう充実させて、昭和時代に引きつがれた。しかし、太平洋戦争の無条件降伏の結果、教育制度の革新的改革が行なわれた。これがいわゆる6.3.3.4制である。この制度も発足以来20数年、その間、学力低下の問題、入学試験地獄の問題、生徒指導の問題、大学紛争問題等幾多困難な問題が山積みしていた。

特に、最近における科学技術のめざましい進歩と経済成長、都市化の進行は、わが国の産業構造や生活構造に大きな変化を与え、さらに、情報化社会といわれる中で、毎日おびただしい情報がわたしたちの日々の生活を大きく刺激し、不安定な社会現象をもたらしている。この情報化社会の特色は拡散化の傾向が一般化することであり、拡散化の傾向とは、すべての境がなくなってくることである。たとえば、都市と農村の境がなくなること、男性と女性の境がなくなること、老人と若い者の境がなくなること、夜と昼との境がなくなること、夏と冬の気候の境がなくなることであるといわれている。

以上のような激しい社会の変化に伴い、人間疎外の傾向が現われ、人々の唯物的考え方、自己中心的考え方がしだいに強くなる反面、愛・共同・奉仕などの社会連帯意識は稀薄となり、学校教育においても教育の中心目標である人間形成という課題に対し、深刻な問題を投げかけるようになったのである。

このような社会情勢の中で、昨年6月、中央教育審議会は、学校教育全般にわたり、今後の進むべき方向について答申されたのである。いわゆる第三の教育改革案である。その内容は、6.3制度の改革、幼児教育の充実、特殊教育の拡充整備、大学教育の改革等であるが、いずれも緊要な課題であり、今後、積極的にこの改革が進められなければならないと思う。さらに戦後何回か改訂されてきた学習指導要領も、抜本的改訂が断行され、小学校は、すでに昭和46年度より実施され、中学校は、昭和47年度より実施の段階に入ったわけである。量的にも質的にも完全実施をめざしたいものである。

教育計画は、常に過去からの教訓と未来からの要請の接点にたって樹立されなけ

ればならないといわれている。わたくしたち教育に関係する者は、常に先輩ののこされた尊い歴史の上に、21世紀に生きる子どもたちの望ましい人間像を追求していかなくてはならないと思う。わたくしは、先に述べた激動する社会情勢の中で、これに適応しながら強く正しく生き抜くことのできる主体的人間、そして常に新しいものを作り出す創造的人間、さらに相手の立場にたって、ものを考えることのできる心情豊かな人間を理想像としたいと考えている。

この人間像を実現するためには、学校教育のみではとうてい成し得るものではない。教育基本法の第7条でも、「家庭教育および勤労の場所、その他社会において行なわれる教育は、国および地方公共団体によって奨励されなければならない」としており、家庭教育、社会教育の必要性を認めている。今後、学校教育、家庭教育、社会教育のそれぞれの役割分担を明らかにして、幼年期から高年期にいたる生涯各期を通じて適切な教育が行なわれなければならない。

このような教育を進めるにあたって、教育行政はどのような役割を果たすべきだろうか。教育行政とは、教育の目的をよりよく、より効率的に達成できるように側面より、いろいろと援助することである。すなわち、行政を行なうにあたって必要な教職員、施設・設備等的人的、物的な教育条件を整備することが行政の役割と思う。具体的には、1 昨年以来の教育施設調査会、標準運営費調査会の答申や、本市教育の振興計画等の強力な推進を図ることこそ、当面の重要課題と考えている。

教育は、教師と児童生徒の魂のふれ合いの中で営まれるもので、教師の人格や言動は、児童生徒に直接大きな影響を与えるものである。いかに施設・設備が充実しても、要は教師その人にあるといっても過言ではない。最近、教師については専門職ということばが一般化されてきているようであるがまことに適切なことばだと思う。教育は、人間が人間を指導育成するという仕事であり、教師は、人間形成者として、精神技術者として、近代職業人としての役割を持っているため、豊かな人間性や広い教養が要請されるとともに、さらに特別な資格と専門的な知識、すぐれた教育技術が必要とされる。今日、専門職といわれる根拠はここにあると思われる。したがって、教師には、専門職にふさわしい自覚と教育実践が要求される。このような実践の中にこそ、教師としての生きがいもおのずから生まれてくるものと信ずる。

足利は、最古の学校のあるまちである。この輝かしい歴史や伝統を受けついで、香り高い教育のまち足利を実現しなければならない。その建設は、いつに各学校と教育委員会の力にかかっている。今後も、教育委員会と学校は、真に一体となってまい進しなければならないと思う。

この学制頒布百年の記念すべき年にあたり、お互いに深い反省と新たなる決意をもって、本市教育の前進を誓いたい。なにとぞ、関係各位のご理解とご協力を心から願うたいである。